

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考える」』

開催日時・会場

- ✚ 平成24年6月23日（土）午前10時～正午
- ✚ 飯田合同庁舎講堂

参加者

- ✚ 意見交換参加者 74名
公募の県民：60名
県関係者：14名（阿部知事、進行役職員13名）
- ✚ 傍聴者 約15名



会場の様子など

休日にもかかわらずたくさんの皆さんにお集まりいただきました。少し暑い日でしたが、爽やかな風が抜ける会場からは南信の山並みが美しく見えていました。

冒頭、阿部知事が「私は、やはり社会を作っていくのは人間で、長野県の将来は何となく放っておいてできるわけではなくて、県民の皆さん一人ひとりの思いがあって、行動があって20年後の長野県が作られることは間違いないと思います。そういう意味で是非こういう社会にしたい、こういう長野県でありたいという思いを多くの人たちがしっかりと共有し合えることが、より素晴らしい長野県づくりにつながっていくと思っています。そういう観点で前向きな夢と希望の持てるビジョンを今日は語り合っただけで大変ありがたいなと思っています。」などとあいさつをした後、テーブルごとに活発な意見交換をしていただきました。意見交換は、ワールド・カフェという意見交換の過程（プロセス）そのものを大切にする手法によって行いました。

最後に、テーブルごとの意見交換を振り返って「振り返りシート」に長野県が20年後にあるべき姿に近づくためのアイデア等を記入していただき、全体発表を経て閉会しました。

参加者の主なご意見

参加者の皆さんに記入していただきました「振り返りシート」のご意見・ご提言は、新たな総合5か年計画づくりに活用させていただきます。

振り返りシートでは、以下の3つの項目に記入していただきました。

振り返りシート
以下に記入しながら、今日の意見交換を振り返って、短く簡単に記入してみてください。

グループ テーブル

20年後の長野県のあるべき姿を、今日の意見交換でもっとも心に残ったキーワードを用いて短く簡単に表してみてください。
(例) OOOO県民様、OOOOのある長野県など

20年後の長野県のあるべき姿に近づけるために、これはよいと思う工夫やアイデアがありましたか？

上記の工夫やアイデアを実行するために必要なこと、今後実施しなければならない課題は、何でしょうか？

1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

20年後の長野県のあるべき姿を、今日の意見交換でもっとも心に残ったキーワードを用いて短く簡潔に表してみてください。

2 あるべき姿に近づくアイデア

長野県を20年後のあるべき姿に近づけていくために、これはよいと思う工夫やアイデアがありましたか？

3 解決すべき問題と障害

工夫やアイデアを実現するために障害となることや、今後解決しなければならない問題は、何でしょうか？

以下には、意見交換の概要をお伝えする目的で、参加者のご意見・ご提言をサブ・テーマごとに整理し、簡潔に取りまとめて掲載します。（全ての意見を紹介するものではありません。）

グループ1（サブ・テーマ：長野県の誇る健康・長寿について）

1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✚ 3世代同居のススメ
- ✚ 地域の絆強化（疑似家族化）
- ✚ 地域性豊かに生活できる長野県
- ✚ 人に優しい“愛” ある長野県
- ✚ 地域・家族のつながりを大事にする長野県
- ✚ 若者が地域で生活し働けるような地域に循環する産業が生まれ息づく長野県
- ✚ 長生きが楽しい長野県
- ✚ 世代を超えて助け合える長野県
- ✚ 愛情ある食育の長野県



2 あるべき姿に近づくアイデア

- ✚ 税制等での優遇、若者の農山村への定住促進
- ✚ 同居率を上げ、あるいは地域に若者のいる環境をつくる。
- ✚ 未婚を減らし、少子化対策の原点、結婚活動を推進し結婚できる社会をつくる。
- ✚ 農業が規模に関係なく企業的に経営され安定的な収入を確保する。
- ✚ 地域産業の創設、農業製品のブランド力強化
- ✚ 地域住民、行政、経済団体、生産者団体が一同に介して方向性を出すことから、生き甲斐発見の場となり地域活性化になる。
- ✚ 誰もが自然に交流できる場、持っている力を出せる場や機会、家族・地域の結びつきを強められる場
- ✚ 人との交流、縁側でお茶を飲む関係づくり
- ✚ 外に出て交流する場の確保、そこで食事を作ったりみんなで話ができる場
- ✚ 独居の方、高齢者の方が戸外に出てコミュニケーションできる場所をつくる。
- ✚ コミュニティーの再生によって少しでも認知症を予防できたらよい。
- ✚ 住んでいない家、集落センターの活用
- ✚ 市町村ではなく、各地区・各地域といった小さな集まり
- ✚ 食を大切にす風土の伝承
- ✚ これからの長野県を良くするために若い人や子どもに食べることの大切さを伝える機会をつくる。
- ✚ リニア新幹線を活かす。

3 解決すべき問題と障害

- ✚ 地域における雇用の場づくり（半農半〇的なものも含めて）

- ✦ 中央集権から地方分権型社会への転換
- ✦ 若い人が定着できる条件、産業・働き稼げる場所
- ✦ 家族間の対話が少なく、ひとつ屋根の下での生活を取り戻し、活気ある地域をつくる必要性を感じる。
- ✦ ゆとりのある、あくせくしない社会をつくること。
- ✦ 今の若いお母さんたちに食事の大切さを分かってもらうのは難しいのではないか。

グループ2 (サブ・テーマ: 長野県を支える産業について)

1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ ブランド力のある長野県
- ✦ 長野の資源を見える化する。
- ✦ 1,000年続く互恵性社会をめざす。
- ✦ 高齢者が起業できる長野県
- ✦ 自然環境と共存していく長野県
- ✦ 自然エネルギーでエネルギー自立



2 あるべき姿に近づくアイデア

- ✦ 長野ブランド（農産物、林産物）を的を絞って育む。
- ✦ 長野県独自で成り立つ産業づくりとして教育の場で人材を育成する。
- ✦ 自立した農業、林業、産業をつくるため若い世代の教育に力を入れる。
- ✦ 子どもの教育（産業に対する理解等）から、世界に通ずる人や産業づくりをし、地域においてはネットワークを活用したつながりを大切に、長く働ける環境をつくる。
- ✦ 地域の仲間づくり、リーダ養成事業への助成
- ✦ 地域にはたくさんの資源があり、それを活用していこうと考えている人たちが大勢いることに感激しました。あとは、それをどうつなげていくか。皆さん目指しているものは同じであると考えるので、仕組みができれば実現できる。

3 解決すべき問題と障害

- ✦ 資金面、銀行などの融資の問題
- ✦ 少子化高齢化の中、どう質の高い教育を維持するかが課題
- ✦ 異業種が連携しやすい環境づくり、規制の緩和や特区づくり
- ✦ 補助金だけで運営しているような団体が障害（民業の圧迫）
- ✦ 納得のいかない規制
- ✦ 規制を重んじる役所

グループ3 (サブ・テーマ: みんながあこがれる長野県での暮らしについて)

1 キーワード=20年後の長野県のあるべき姿

- ✦ おいしい野菜と果物のある長野県
- ✦ 心のふるさと、水と緑の豊かさ
- ✦ 生きる力を育む・発信する長野県
- ✦ 自然と農村が残る長野県
- ✦ 産業とお金の地域循環

2 あるべき姿に近づくアイデア

- ✚ 県の中央に県庁があって欲しい。北に偏っているのは不都合が多すぎる。
- ✚ リニア新幹線が開通するのに合わせて南信の自然、食物など良さを知ってもらい、一度は来てみたい県にしていくため、今から地域の人たちの意見を集約し行政と民間が一体となって取り組む。
- ✚ 伊那谷らしさ長野県らしさを出すための地産地消を進める。
- ✚ 文化を守ることは森林を守り自然水を守ることになる。
- ✚ 総合学習などを取り入れ、小中学生の頃から自然環境の勉強をし、自然に親しむ。
- ✚ 今の子どもたちに、山を守るため、水を守るためにはどうしたらいいのかを学ぶことが未来につながる。
- ✚ 子どもたちへの教育・体験を通じて、環境、自然、農林業、生きる力を身につけさせていくことが大切
- ✚ 誇りを持って育ち、育った地を自信を持ってPRする力を育む。
- ✚ 進学で県を離れる子どもたちが地元に戻ってこられる産業・農業・林業
- ✚ リニア新幹線の開通で、南信州を第2の学園都市、研究都市にする。
- ✚ グリーンツーリズムによる都会からの移住促進



3 解決すべき問題と障害

- ✚ リニア新幹線をどのように活かすかが課題、良いことだけでなくマイナス面もある。
- ✚ 公社造林の契約期間があるけれども、森はあるが人がいないようなことは考えられる。
- ✚ 環境整備にかかる財政問題
- ✚ 農業の担い手を増やすこと、若者へ農業がお金になるというアピールが課題
- ✚ 教育関係との調整が課題
- ✚ 私たち大人がきちんとした手本になれるようにすること。
- ✚ 人口の減少
- ✚ 大人の変化に対する考え方や変えていこうとする気力
- ✚ 農業への異業種からの転換や再生可能エネルギーの創設への障害となっている法律や税



(会場から見える南信の山並み)